

第2回 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 会議概要録

開催日時 平成25年2月21日(木)

午後1時30分～午後2時45分

場 所 松山市役所 本館11階 大会議室

午後1時30分 開会

《挨拶》

【遠藤副市長】

本協議会は、松山駅周辺地区の一体的なまちづくりを目指し、関係者による情報の共有及び連携・調整を図ることを目的として設けられた。本地区は市民・県民の共有のものであり、大変重要な位置づけの中で、その将来像に対しては市民・県民から大きな期待と関心が寄せられている。

そのため、このまちづくりへの幅広い市民参画の促進を図るために、本協議会とあわせて『松山駅周辺まちづくり審議会』を設け、まちづくりの全体構想や車両基地跡地の利用などについて議論を進めている。

市民・県民の期待に応え、県都の陸の玄関口にふさわしいまちづくりの実現に向けて、この協議会が実りあるものとするため、皆様方には忌憚のない意見をいただきたい。

【柏谷会長】

この協議会は、副市長の挨拶にもあったように松山駅周辺整備に関連する様々な団体の情報交換、連絡調整ということを中心としている。

これからの松山市の発展ということについて、県庁所在都市としての集積を活かした、高度な情報型あるいは知的創造的なまちにしていくのかという戦略的な観点ということも大事になってくると考えている。

皆さんから将来に向けての積極的なご提案等をいただきたい。

《議題1. 松山駅周辺整備事業の進捗状況について》

【事務局説明】

(松山駅周辺の将来像について、VR(ビデオ)を上映)

- (1) 松山駅周辺整備事業における今年度の各組織のスケジュール及び今後の松山駅周辺拠点地区整備事業スケジュールについて説明
- (2) 今年度3回開催した『松山駅周辺まちづくり審議会』の協議内容及び協議結果の概要について説明
 - ・今年度は審議会として松山市が購入予定の車両基地跡地の利用に関する「基本理念」「基本方針」「主要機能」について、とりまとめを行った。
 - ・審議会では、今後の検討課題として、車両基地跡地と周辺との連携や景観、松山駅

自体の集客性等、推進協議会において検討が必要な課題についても意見がでてきた。
※審議会の協議内容については、本市ホームページに掲載の『松山駅周辺まちづくり審議会』開催状況をご覧ください。

(3) 2月9日開催の『第2回J R松山駅周辺まちづくりシンポジウム』の概要について説明

- ・第1部は、宗田 好史（京都府立大学 教授）氏による「旅する人と出会う街ー21世紀の駅のまちを創る」がテーマの基調講演。
- ・第2部は、河野 俊郎（国土交通省都市局街路交通施設課 整備室長）、泉 雅文（四国旅客鉄道株式会社 代表取締役社長）、井上 要（愛媛県 参与）、宗田 好史（基調講演者：京都府立大学 教授）、野志 克仁（松山市長）の各氏（5名）により、柏谷 増男（愛媛大学 名誉教授）氏をコーディネーターに「トップが語るJ R松山駅周辺の可能性について」がテーマのパネルディスカッション。
- ・第2回シンポジウム参加者に対し実施したアンケート（第1回シンポジウムでも実施）の集計結果について説明。
- ・2回とも共通して「松山駅周辺地区が目指す将来像にふさわしいキーワード」は「活力・賑わい」「快適さ」「交流」「美しさ」が高く、「松山駅周辺地区に立地を図ればよい施設」では「駐車・駐輪場」「コンサートホール」「市民活動センター」が高い傾向であった。

※シンポジウムの開催内容については、本市ホームページに掲載の『第2回J R松山駅周辺まちづくりシンポジウム』開催状況をご覧ください。

(4) 「松山駅周辺先導的都市環境形成計画」の概要について説明

- ・松山市において松山駅周辺地区が環境に配慮したまちづくりの先導的な役割を担うものとして、平成23年度から2ヵ年かけて計画を取りまとめている。
- ・今年度末に計画書策定予定であり、その計画に基づく具体的な政策は今後当推進協議会でも協議しながら、平成26年度末の策定を目指すまちづくりガイドラインへ反映させたい。

【質疑応答】

- ・特に意見なし

《議題2. 前回推進協議会での課題について》

【事務局説明】

- ・前回推進協議会での意見を受けて、
 - ① 協議会のあり方について、スピード感を持って、より具体的な構想を練り上げるために、平成26年度を目標に「まちづくりガイドライン」策定を目指す。
 - ② 地区のあり方について、松山市を中心に当推進協議会、松山駅周辺まちづくり審議会、市民参画にてお互いの意見を考慮しながら、一体化した集客拠点となるような

まちづくりを進める。

- ③ 景観配慮、駅前広場から大手町への協調、大手町への開発波及効果等の検討項目について、平成27年頃から始まる各施設の設計検討着手に合わせ、並行して一体的に検討する。

【質疑応答】

- ・特に意見なし

《議題3. 今後の推進協議会の役割と進め方について》

【事務局説明】

- (1) 推進協議会で以下の項目について協議を行う必要がある。
 - ① 賑わいの創出
 - ② 円滑な交通連携
 - ③ 趣きのある景観形成
 - ④ 多くの人が利用しやすいユニバーサルデザイン
 - ⑤ 災害に強いまちづくりなど
- (2) 今後の推進協議会の役割と進め方について、平成25年度・26年度の計画段階における「まちづくりガイドライン」策定と平成27年度以降の「まちづくりガイドライン」に基づく維持・管理・運営段階の2段階で進めていく。
- (3) 平成26年度策定予定の「まちづくりガイドライン」について、景観（景観、外構、広告物、サイン等）、環境、緑化、公開空地の活用等のルール化を目指し、そのルールの運用体制についても取り決めていきたい。

【A委員】

- ・松山駅周辺整備事業に関する情報の市民への周知方法は、会議状況のホームページへの掲載以外に何か考えているか。

【事務局】

- ・『JR松山駅周辺まちづくりシンポジウム』や公開による『松山駅周辺まちづくり審議会』、またその結果のホームページ掲載について継続していく。ほかに来年度は、児童・生徒を対象とした作画コンクールなどを実施する予定である。また、審議会、協議会等ある程度議論がまとまった段階で広報にも掲載する予定であり、市民に対し事業内容や進捗状況がわかるようにしていきたい。

《議題4. その他》

【事務局説明】

- ・『松山駅西地区まちづくり勉強会』の概要について説明
※勉強会の開催内容については、本市ホームページに掲載の『松山駅西地区まちづくり勉強会』開催状況をご覧ください。

【B委員】

- ・『第2回 JR 松山駅周辺まちづくりシンポジウム』に参加したが、その中で宗田先生はまちづくりは女性の参画が重要との意見であった。『松山駅西地区まちづくり勉強会』では、女性の参加はどのような状況か。また、女性の参画を促すべき工夫が必要ではないか。

【事務局】

- ・今年度3回の勉強会では、女性も参加いただいているものの会自体の参加率が低い。参加率を上げるため、時間帯・曜日を変えながら開催してきたが、いかに参加していただくか今後の課題である。また、女性だけでなく、若い方等、様々な年代の意見を取り入れるような工夫も行っていきたいと考えている。

【C委員】

- ・シンポジウムでのアンケートの中で「将来像にふさわしいキーワード」として、「活力・賑わい」「快適さ」「交流」が上位3位を占めている。ハコモノばかりは駄目という意見もあると聞くが、このような場を形成するための施設は必要と思うが、どう考えているか。
- ・JR松山駅、市駅、一番町、道後等、市内全体の回遊性を考慮して計画していかなければならないと思うが、どのように考えているか。

【事務局】

- ・松山市が購入予定の車両基地跡地に関して、審議会でも「市民活動交流機能」「賑わい交流機能」が必要との意見等があり、松山市として今後具体的に検討していく。また、JR四国、愛媛県、民間地権者もそれぞれ市民が望むような地区になるよう検討していただきたい。
- ・回遊性について、シンポジウムや審議会でも都市軸の重要性は言われており、松山市としても、現在、中心市街地での再開発、道後地区の景観整備等を行っており、また、松山市駅前から花園町にかけての道路空間改変に関する検討も行っている。今後さらに進め、松山の都市軸を作っていけるよう取り組んでいきたい。

【C委員】

- ・駅西地区の電線の地中化をお願いしたい。きれいなまちを作っても、電線が張りめぐらされているのは駄目。
- ・現在、街路樹として実のなる木を植樹している。鳥による糞被害が多発していることから、植栽する際に木の種類の検討をお願いする。

【事務局】

- ・電線の地中化について、電気事業者をはじめ関係機関で構成される四国全体での電線地中化を検討する会があり、そこで優先順位が決められている。松山市としては、大きな幹線道路については地中化が実現できるよう努めているところであるが、6mの区画道路は難しいと考える。

- ・植栽について、そのような声をまちづくりルールに活かしていきたい。

【D委員】

- ・駅東地区でも同じく鳥による糞被害が多発しているため、植栽について、同様に対処して欲しい。
- ・駅前広場については、説明資料にある縮図のとおり整備されるのか。

【事務局】

- ・植栽について、駅東地区では、この協議会の中でも検討し「まちづくりガイドライン」に活かしていきたい。
- ・駅前広場の縮図は、決定ではなく案ではあるが、これまで検討を重ねてきた代表的なものである。来年度以降、推進協議会等でさらに検討を加えたうえで、平成26年度に内容をまとめていく予定である。

【D委員】

- ・駅とロータリーについて、今後、複数案提示してもらえるのか。

【事務局】

- ・今回提示した案は、都市計画決定に至る中で協議してきたもので、交差点処理や路面電車の出入り等がスムーズにいけるのか、またバス・タクシー・自家用車の駐車面積等も考慮に、関係機関との大変密度の濃い協議を行った上での案のひとつである。

【D委員】

- ・駅の西口にもバスやタクシーの停留所がくるのか。

【事務局】

- ・駅の東側・西側で分担していかなければならないと考えている。

【E委員】

- ・平成29年に愛媛国体がある。その時点では整備事業は途中段階ではあるが、駅からの景観は重要である。整備の優先順位が変更できるのであれば変更して、国体時に来外者に良いイメージを持ってもらえるようにしてほしい。また、JR貨物駅跡地を駐車場として活用するなど、愛媛国体に向けて跡地活用の何かイメージはあるか。

【愛媛県】

- ・残念ながら愛媛国体の時には鉄道高架の完成まで至っていない。事業の途中ではあるが、国体時にはJR貨物駅は移転しており、その跡地の活用について、具体的なイメージは現時点ではないものの国体開催時において全国の方を迎えるために跡地を活用することは考えている。

午後2時45分 閉会